

|   |  |      |      |  |             |          |            |    |
|---|--|------|------|--|-------------|----------|------------|----|
| 授業科目  | 比較文化論  |      |      |  | 単位          | 2        |            |    |
| 履修  | 選択   | 関連資格 |      |  | ナンバリング      | TO11805J |            |    |
| 開講年次  | 1年   | 開講時期 | 前期   | 該当DP   | DP3-1 DP4-2 |          |            |    |
| 担当教員  | 友原 嘉彦  |      |      |  |             |          |            |    |
| 授業概要  | <p>これまで文化比較はA国とB国、あるいは、Y民族とZ民族というような地理的に離れた対象同士の比較がメインであった。しかし、人や情報の行き来の急速な進展により、各地で相対的に均質化してきた。現在ではA国民というのは同じであっても、どのような属性かによって、属性を超えたコミュニケーション等にもすれば断絶とも言える乖離が認められるようになってきた。前世紀後半におけるブルデューの文化資本論は有名であるが、現在、この流れは空間を超え、一層力強いものになっている。つまり、A国民同士だが、まったく話が通じず、地理的に極めて遠いところでも、同属性のB国民とは話がとてもよく合う、ということが当然となっている。</p> <p>本科目ではトランプ大統領の出現にかかり、米国を事例として、属性の中で注目されている自国民第一主義を支持する層と、これに相対する形のリベラル層の文化について比較考察することとする。</p> <p>*なお、本科目では予習として、各講の該当部分について事前に読んでおくことが求められる。読んでいることを前提として、講義し、議論していく。</p> |      |      |  |             |          |            |    |
| 学生が達成すべき行動目標  | 自国民第一主義の支持者の文化とリベラルの文化とを米国の事例を基に学び、これらを比較考察することでポピュリズムに偏りがちな世界を修復していく術を導き出していくことができる。  |      |      |  |             |          |            |    |
| 達成度評価   |  |      |      |  |             |          |            |    |
| 評価と評価割合／<br>評価方法  | 試験   | 小テスト | レポート | 発表(口頭、プレゼンテーション)   | レポート外の提出物   | その他      | 合計         | 備考 |
| 総合評価割合  | 0  | 0    | 80   | 0  | 0           | 20       | 100        |    |
| 知識・理解 (DP1-1)   |  |      |      |  |             |          |            |    |
| 知識・理解 (DP1-2)   |  |      |      |  |             |          |            |    |
| 知識・理解 (DP1-3)   |  |      |      |  |             |          |            |    |
| 知識・理解 (DP1-4)   |  |      |      |  |             |          |            |    |
| 思考・判断 (DP2-1)   |  |      |      |  |             |          |            |    |
| 思考・判断 (DP2-2)   |  |      |      |  |             |          |            |    |
| 関心・意欲 (DP3-1)   |  |      | 60   |  |             | 10       | 70         |    |
| 関心・意欲 (DP3-2)   |  |      |      |  |             |          |            |    |
| 態度 (DP4-1)  |  |      |      |  |             |          |            |    |
| 態度 (DP4-2)  |  |      | 20   |  |             | 10       | 30         |    |
| 態度 (DP4-3)  |  |      |      |  |             |          |            |    |
| 技能・表現 (DP5-1)   |  |      |      |  |             |          |            |    |
| 技能・表現 (DP5-2)   |  |      |      |  |             |          |            |    |
| 技能・表現 (DP5-3)   |  |      |      |  |             |          |            |    |
| 具体的な達成の目安   |  |      |      |  |             |          |            |    |
| 理想的レベル  |  |      |      | 標準的なレベル  |             |          |            |    |
| 自国民第一主義の支持者の文化とリベラルの文化とを十分に比較考察、また、説明でき、どうすればポピュリズムへの傾きにブレーキをかけられるかをよく検討することができる。 |  |      |      | 自国民第一主義の支持者の文化とリベラルの文化とを比較考察、また、説明でき、どうすればポピュリズムへの傾きにブレーキをかけられるかを検討することができる。 |             |          |            |    |
| 授業計画  |  |      |      |  |             |          |            |    |
| 進行  | テーマ・講義内容   |      |      | 授業の運営方法  | 学習課題(予習・復習) |          | 予習・復習時間(分) |    |

|    |                                       |    |       |     |
|----|---------------------------------------|----|-------|-----|
| 1  | ・ガイドンス                                | 講義 | 復習    | 60  |
| 2  | ・第1章 心に向かう旅                           | 講義 | 予習、復習 | 180 |
| 3  | ・第2章 「いいことがひとつ」<br>・第3章 忘れない人々        | 講義 | 予習、復習 | 180 |
| 4  | ・第3章 忘れない人々<br>・第4章 候補者たち             | 講義 | 予習、復習 | 180 |
| 5  | ・第4章 候補者たち<br>・第5章 「抵抗する可能性が最も低い住民特性」 | 講義 | 予習、復習 | 180 |
| 6  | ・第6章 産業                               | 講義 | 予習、復習 | 180 |
| 7  | ・第7章 州                                | 講義 | 予習、復習 | 180 |
| 8  | ・第8章 説教壇とメディア                         | 講義 | 予習、復習 | 180 |
| 9  | ・第9章 ディープストーリー<br>・第10章 チームプレイヤー      | 講義 | 予習、復習 | 180 |
| 10 | ・第11章 信奉者                             | 講義 | 予習、復習 | 180 |
| 11 | ・第12章 カウボーイ                           | 講義 | 予習、復習 | 180 |
| 12 | ・第13章 反乱                              | 講義 | 予習、復習 | 180 |
| 13 | ・第14章 歴史の試練                           | 講義 | 予習、復習 | 180 |
| 14 | ・第15章 もはや異邦人ではない                      | 講義 | 予習、復習 | 180 |
| 15 | ・第16章 「美しい木があるという」                    | 講義 | 予習、復習 | 180 |
| 16 |                                       |    |       |     |
| 17 |                                       |    |       |     |
| 18 |                                       |    |       |     |
| 19 |                                       |    |       |     |
| 20 |                                       |    |       |     |
| 21 |                                       |    |       |     |
| 22 |                                       |    |       |     |
| 23 |                                       |    |       |     |
| 24 |                                       |    |       |     |

|                       |  |  |  |  |
|-----------------------|--|--|--|--|
| 25                    |  |  |  |  |
| 26                    |  |  |  |  |
| 27                    |  |  |  |  |
| 28                    |  |  |  |  |
| 29                    |  |  |  |  |
| 30                    |  |  |  |  |
| 理解に必要な予備知識や技能         | <p>①トランプ米大統領、ドイツのための選択肢(AfD)、ル・ペン仏国民戦線党首<br/>                 ②オバマ米前大統領、メルケル独首相、マクロン仏大統領<br/>                 新聞などを通して、世界的な影響も大きい米、独、仏にかかる上記①、②の人々・組織の履歴・環境を中心に、主張や支持層についても把握しておくこと。同様に欧州で存在感を有する英国やオーストリア、あるいは旧オーストリア領であるなど同国の影響も大きい東欧諸国(ポーランドやハンガリーなど)についても目を配らせておいてもらいたい。</p> |  |  |  |
| テキスト                  | <p>A.R.ホックシールド著、布施由紀子訳(2018)『壁の向こうの住人たち アメリカ右派を覆う怒りと嘆き』岩波書店</p>  |  |  |  |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中島義道(2014)『反〈絆〉論』ちくま新書</li> <li>・中島義道(2013)『非社会的社交性』講談社現代新書</li> <li>・中島義道(1997)『〈対話〉のない社会』PHP 新書</li> <li>・浜本隆志(2004)『魔女とカルトのドイツ史』講談社現代新書</li> </ul>  |  |  |  |
| 授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ  | <p>皆さん、今までに話が通じなかった経験はありませんか？それにはいろいろな要因が関係していると思いますが、もしかしたらここで取り上げたように文化資本の乖離が大きく関係しているかもしれません。新聞やテレビなど「既存の」メディアは欧米について今なおリベラルを中心に取り上げています。リベラルはまだ力を失っていません。でも、「右」がすごい勢いで台頭してきています。その勢いを無視せず、誠実に直視し、共感可能な部分を足掛かりとして相互理解、相互扶助に繋げていきましょう。</p>                                     |  |  |  |
| 達成度評価に関するコメント         | <p>日本でも地域格差が言われていますが、そこには本科目で取り上げたように社会構造の差が大きく関係しています。こうした差を埋めるには福澤諭吉の言うように基本的には学問しかありませんが、学識のある人がUターンしないのも問題ですね。誰かが勇気を出して帰ってき、少しずつ基盤を整備していくしかありません。僕もそこにやりがいを感じていました(なんとか、います、と言いたいです)。皆さんもよかったら志を共にしましょう。</p> <p>達成度評価の「そのほか」とは、授業への参加・貢献度です。単に出席しているだけでなく、(意義のある)意</p>       |  |  |  |